

魚介類中のPCB検査結果（令和3年度）

令和3年6月及び10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類8種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検体で不検出でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	サンマ	1	0	不検出	0.5ppm
	ババガレイ	1	0	不検出	
	ヒラメ	2	0	不検出	
	マイワシ	2	0	不検出	
内海内湾魚介類	イサキ	1	0	不検出	3ppm
	イシモチ	1	0	不検出	
	ブリ	1	0	不検出	
	マアジ	1	0	不検出	
計	10	0			

(検出限界:0.01ppm)

《PCBについて》

PCBとは、ポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。理論的には209種類の異性体があり、ダイオキシン類に分類される異性体も含まれています。

PCBは化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つため、変圧器、コンデンサーなどの様々な用途に使用されてきましたが、現在は新たな製造が禁止されています。また、東京事業エリア(埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県)においては、高濃度PCB含有の変圧器・コンデンサー等は処分期間が令和4年3月31日までと決まっているほか、安定器及び汚染物等は令和5年3月31日まで、低濃度PCB廃棄物は令和9年3月31日までに処分する必要があります。

PCBは分解されにくく、脂肪に溶けやすい性質があるため、環境中に放出されたものは食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がりました。また、大気や海洋などの循環により拡散し、北極圏などPCBを使用していない地域のアザラシやクジラなどの生物にも高濃度に蓄積されていることがあり、地球規模での汚染が問題となっています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】